

(1) 人権尊重について

チェック項目については全国保育士会が作成した『保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～』を使用しました。

結果は下の円グラフの通りです。



全設問に対して 99.0%が望ましい対応をしていることが分かりました。(昨年度より 0.9ポイント増) 1.0%の望ましくない対応は主に下記の 2 項目に見られました。

並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待てず、腕を掴んで引っ張る。

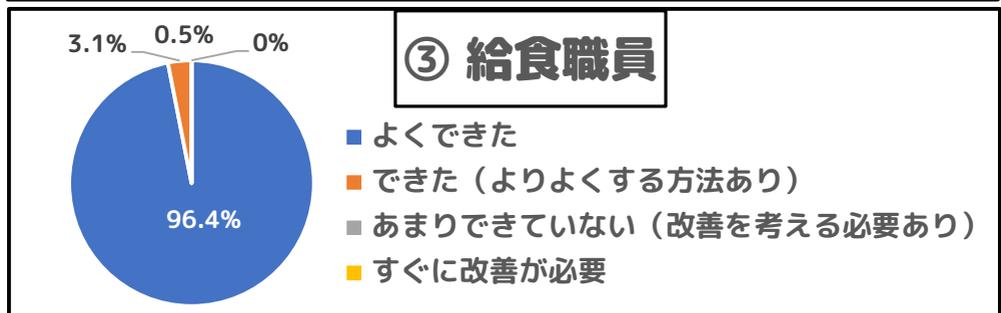
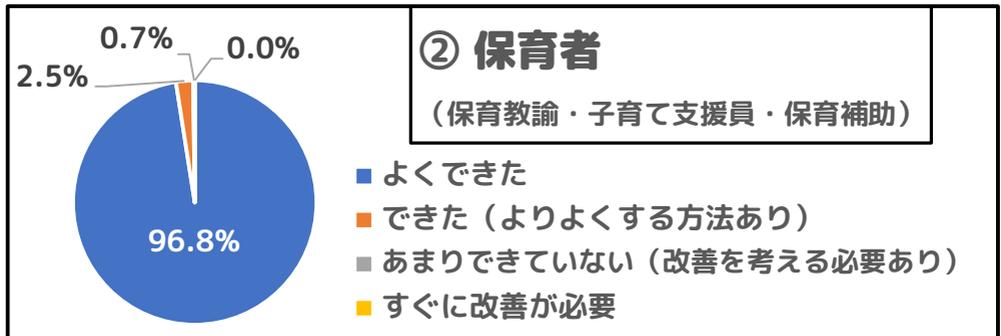
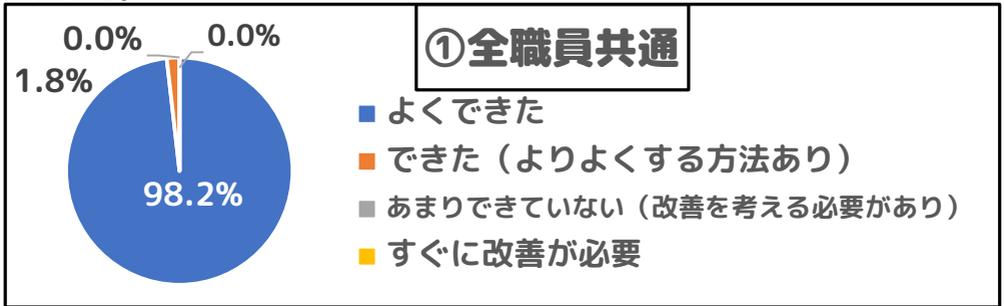
突発的な行動により危険だと判断したときには危険な行動を抑止するために体を押さえることは起こりうることであり、認められています。初めに自発的行動をうながすことはもちろん、腕をつかむと肘が抜けてしまう可能性もあるので極力避けたいことは前提とし、個別の支援が必要な場合は引き続き担任が職員会議で話題に出し、個別に保護者の皆様と相談しながら対応にあたっています。

自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

2歳児の職員に迷いがあることが感じられましたので、「自分から訴えてトイレに行くことができる」をどのように解釈するかを会議で話題としました。個々の発達にもよりますので一概には言えませんが、特にトイレトレーニングを行っている2歳児は不確実な場合がほとんどです。「さっきトイレに行ってからいっぱい時間がたったから行ってみようか？」と促すこともトレーニングにおいては必要なことだと考えています。「絶対にトイレに座りなさい！」ということは問題ですので、過度なトイレトレーニングにならないように配慮するよう共通理解を図りました。

(2) 園の運営 や 教育・保育活動について

『平成 30 年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己チェックリスト 100 CD-ROM ブック (PriPri ブックス)2016 世界文化社』を基に、園独自の項目も設定し、自己評価を行いました。



① 全職員共通、② 保育者用、③ 給食職員用といずれもよくできたとの回答が 95%以上と望ましい対応と適切な保育の提供を行っていました。その中でもよくできたの割合が 90% (給食は 5 人のため 80%) を下回ったものにつきまして、それぞれの改善策を掲載いたします。

① 職員共通

令和4年度は90%を下回った項目がございませんでした。そこで、昨年度からの改善点である研修について記載します。

研修について

今年度も個々の課題に応じて実地でなくとも研修が受けられるよう、動画研修サービスを活用して個々に選択した動画を見られるようにしました。「空いた時間にできる」「もう一度観ることもできるので良い」などという意見が寄せられ、日々の保育への意欲の向上も図れてるようになって感じています。研修の機会にばらつきが見られたため、時間確保は課題です。他園の職員との意見交換による気づきも大切なことですので、コロナ5類移行後は、オンラインと実地研修を組み合わせながら質の向上に努めます。

② 保育者（保育教諭・子育て支援員・保育補助）

園児の発達過程のおおむね8つの区分を理解し、園児一人一人の発達に合わせ、指導や援助をしていくことの重要性を理解している。

園児の主体的な活動が確保されるよう、各種計画の評価や反省および日誌などの記入をもとにした園児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成している。

もっと一人一人に目を向けられているようにしたいという意見が見られました。3歳未満児と3歳以上児で考え方は変わりますが、集団のよさを生かしながら一人一人に合わせた指導や支援をしていくことが大切です。そのためには特に自由遊びの時間の振り返りを生かした計画の作成が重要です。また、11時間という長時間保育の中では計画を立てた職員以外にも、遅番の職員や短時間職員と連携していく必要がございます。次年度は話し合いの時間をどのように作り出していくかが課題です。記録の電子化を進め、共有をしやすいようにしていますが使いこなせていないのも実情です。浸透させていくことを課題とし、引き続き取り組んでまいります。

家庭や地域において異年齢の子どもと関わる機会が減少していることを踏まえ、満3歳未満の園児を含む異年齢の園児による活動を、園児の発達の状況にも配慮しつつ、適切に組み合わせ設定するなどの工夫をしている。

コロナ禍においても、お店屋さんごっこや劇の見せ合い等で異年齢児と一緒に活動する機会を設けてまいりました。「感染症の状況を踏まえて無理はせず、徐々に増やしていけたら良いのではと思う」といった意見が寄せられました。コロナウイルス感染症の5類移行を考慮し、計画を立ててまいります。

園児の人権に配慮し、園児一人一人の人権を尊重した教育・保育を行っている。

連日「保育所等職員による児童虐待」のニュースが報道される中、人権感覚が本当に正しいものなのか迷いがあるという意見が寄せられました。不安に思ったことは朝の打ち合わせや会議で話題にしたり、外部講師による研修の機会を設けたりするなどして時代に応じた人権感覚を養ってまいります。

また、「もう少し子ども主体で保育できたんじゃないかと思う」という意見も寄せられました。園児一人一人の人権尊重のためには「主体的な保育」が重要です。安全な環境下で、自由に遊べる時間をより大切にすることを次年度の課題としてまいります。

一方で、「集団生活をして行く中で『やりたくない』『いやだ』という場面があったがどうしても一緒に移動しなくてはいけない場面もあった」等、個別に対応したくてもできないことによるジレンマを感じているようでした。制度上、保育士の人数を増やせないという実情もございます。当園も保育団体を通して強い要望を上げていますが、保護者の皆様にも保育環境がよりよいものになるよう声をあげていただけますとありがたいです。

③ 給食職員

食育計画には、発達に応じて保育者と連携を図り、調理の経験をする機会を設定している。また、保育者の評価をもとに給食職員で評価を行い、改善に努めている。

今年度は特に年長児が育てた野菜を使ったピザ作りをしたり、掘ったサツマイモで焼き芋をしたりと屋外でできる食の体験の機会を設けました。給食職員からは、コロナの5類引き下げ後、来年度は朝の食育や調理体験などが復活できたら嬉しいという意見が寄せられました。感染対策などを徹底しつつ、子ども達を楽しめる内容を計画をしまいきます。

地域への理解を深めるためにも、食材に地域の産物を取り入れ、郷土料理などの食文化に触れる機会を設けている。

今年度は、地元の郷土料理のほか、各都道府県や世界における伝統料理などを献立に組み込む献立作成を行ないました。それに伴ったそれぞれの紹介用紙を作り、直接子ども達の所に行くことを努めてきましたが、盛り付けが間に合わず十分に紹介が行えなかったということが課題として挙げられました。紹介に行く時間も考慮した献立・手順の作成に努めてまいります。

学齢3歳以上児の給食は年間を見通して保護者からいただいた食材費を十分満たす内容であることを考慮している。

食材費の値上げが喫緊の課題です。昨年度同様の提供では食材費を大きく上回ることが予測されています。国産食材を基本としながら、仕入れ先を変更したり、食材を効率的に使用したりして無駄を減らすよう取り組んでいるところです。

明確な結果の見えない教育・保育というお仕事だからこそ行うことが義務とされる自己評価です。どのように評価し、保育の改善・充実を図ろうと考えているかについて保護者の皆様とも共有できますと幸いです。

- ・先を見通した保育ができるようにしていきたいです。子ども発達、興味に合わせたカリキュラムが組めるようにしていきたいです。
- ・今年度は「1×18」をテーマに一人ひとりの力やものを足したら大きな(一つの)力やものになることに気づいて欲しいというねらいをもって保育をしてきました。一人ひとりが遊びや製作をしても友達と関わられるような机の配置や、材料や道具を置くなどの環境の設定、保育者が仲立ちをする場面なのか、子ども達で解決できるように見守る場面のかなど保育者としてどのように関われば良いのか、初めて担任をする学年だったので試行錯誤しながら保育しました。また、縦の繋がりを考えながら昨年度の継続する部分や、進級に向けて目標にすることなども考えました。先輩の先生と組むことができ、子どもの関わり方や保護者対応、保育の反省などたくさんのことを相談できたことも大きく、自分を振り返る時間が多くとれた1年間だったように感じます。次年度も、自分を振り返る時間をとるようにして、日々改善できるようにしたいです。
- ・1組2組の両方の副担任という立場が初めてだったのですが、どちらか一方に偏ることなく保育に関われるように心掛けました。担任の保育者とも日々の保育の内容や行事に向けての準備や流れなど聞き、一緒に考え進めることができました。
- ・保育以外にも環境の整備や環境の安全管理に気を付けました。食事の際には、楽しく食事ができるように言葉かけやマナーを伝えながら進めることができました。
- ・一時保育を利用する親子が安心して利用できるように配慮しました。クラス内で嘔吐をした子がいた時に、自分から嘔吐処理を行わなかったのが今後は積極的に行いたいです。

- ・今年、途中からクラスを見ることになり頑張るつもりだったが、みなさんに迷惑をかけてしまったのが反省です。もっと早めに後のことを考えて行動に移すべきでした。子ども達が不安にならないように笑顔で毎日過ごすようにしました。
- ・昨年も改善点にあげていたプラスな声掛けが今年もあまりできていなかったと感じました。つぼみ組は、クラスに入っている保育者が多いので、いろんな先生からいいと思う声かけを学んでいきたいと思います。
- ・園の環境作りを進めていますが、早めに除草作業を行い、目立たないように対処できているように思います。近隣の方にも「きれいになっているね」と声をかけてもらっています。
- ・自分が足りないことの一つでもあります常に周りを見て仕事をするのであります。今〇〇先生が困っているな、悩んでいるなという気づきをしっかりとし、必要であれば話をし、先生たちの仕事がうまくまわっていけるように手を差し伸べともに歩んでいきたいと思っています。
- ・今回は一人ひとりに応じて排泄や食事をみていきながら対応することができました。
- ・今年は思い出ファイル製作やクラスだよりなどの製作を手伝わせていただいて、少しずつパソコンの使いかたを覚えられました。来年もそのような機会がある場合は少しでも先生のお役に立てるよう頑張りたいです。
- ・職員間で連携を取りながら、安全に保育を行うことができました。支援が必要な子の対応も昨年の研修で学んだことを活かしながら関わることができたので、受けて良かったと思いました。
- ・引き続きコロナ禍の中で、子ども達が楽しく園生活を送ることができるように自分なりに工夫をして保育にあたることができたかと思っています。声の掛け方や子ども達への関わり方を工夫してみたりと本当に試行錯誤の日々で、色々な先生方に迷惑をかけてしまったり、助けていただいたことがたくさんありましたが、子ども達の楽しそうな笑顔や私を頼りにしてくれる姿を見て、嬉しさを感じたり「もっと頑張ろう！」と思えたこともたくさんありました。そんな子ども達が私は本当に大好きで、宝物で、時にはかけがえのない仲間のように感じています。支援を必要とする子に対しても、その子に応じて声の掛け方、伝え方を変えてみるこ

とで以前よりも理解して行動できるようになった部分もたくさん見つかり、自分自身も本当に学ぶことができました。今年過ごしてきた中で学んだことを来年度にも活かすことができるように、今後も楽しく保育をして子ども達と過ごしていきたいと思います。

- ・休みの先生がいた場合はその役割に入った方がいいのか確認をしながら勤務していました。
- ・パソコンや ipod を使った業務では、教わりながら自分でできる範囲が増え、以前よりも自分が思うように作ったり、入力作業に時間をかけず行えるようになったが、まだまだ力不足で努力が必要と感じました。
- ・保育以外にも、環境整備や製作など子ども達に直接ではなくても関わることなので、自分なりにしっかり取り組めたと思います。
- ・個別案を立てることで子ども達の小さな成長をより感じられたり、次はどのようなことを目標にしていくかを決めたくて楽しく園生活を過ごせるかを考えたりしながら関わることができました。荷物の取り違えや怪我などがおきてしまい事前に工夫することで防ぐことができた場面もあったので反省し、先生方に相談し次に同じことが起きないようにしました。
- ・残留リーダーなので夕方の子どもの人数を把握して何時に合流したらいいか確認をしながら、子ども達が怪我をしったりしないで楽しく過ごせるように絵本や手遊び、パネルシアターなど飽きずに過ごせるようにしました。
- ・計画を一緒に組んでいる先生と話し合う時間がなく内容を共有する事しかできなかった。もっと一緒に計画をたてて活動ができるとよかったと思います。
- ・今年は副担任ということで、担任の先生方の保育を沢山見て学ばせて頂き、たくさんのお話を吸収することが出来ました。初めは、子どもの指導の仕方や促した方もままならない私でしたが、先生方の言葉掛けの行い方や活動への移行仕方を 1 年間見させて頂き、自分のまだ力不足なところを見つめ直すことが出来ました。この 1 年間で学んだことを自分の保育の力にしていきたいと思います。

- ・今年度は支援センターの担当になり、月1回の看護師講話という機会をいただき、看護師としての知識や役割を生かすことができよかったです。また、責任をもって臨むために自分で本を読んで調べて、役に立つ知識を身に着けることもできたので、有意義な1年となりました。また、ファーストサインの資格習得を目指しています。資格がとれたら、支援センターでの活動に役立てたいと思います。
- ・今年度はかなり各クラスを回って子ども達の様子や担任の先生たちの話を聞くことができました気がします。また、療育が必要と思われるお子さんに関して保護者と話し合う時間を十分にとり保護者の気持ちを受け止めながら園としての対応も伝えられたと思います。
- ・保育内容について計画書だけで安心しているところがありました。気になったら必ず保育室に目を向けるだけでなく実際に入ることが大事だと反省しました。うまく保育がまわっていないと感じたら早い段階で手立てを考える、担任と話し合いたいと思います。(夕方保育にももっと目を向けていこうと思います。)
- ・今年度もコロナ過の中での保育、みんなで協力しながら行えたと思います。また、感染予防としての保護者への対応を気をつけながら伝えられることができたと思います。
- ・改善点として、思い出ファイル作り(パソコン)をもう少し頑張ればよかったと思う。やり方などを聞きながら少しずつ行えるようにしていきたいです。
- ・子供たちが日々、安全に過ごせるように、また来園者がいつ来てもきれいで気持ち良いと感じてもらえるよう、清掃、玩具消毒等しっかり行いました。図書係としては図書室の整理整頓や絵本コーナーも季節や行事を考え興味もてるように並べることが出来ました。絵本を大切にしたいので修理も丁寧に行っています。私は本園で子ども達と過ごす毎日がとても楽しいです。子ども達も先生たちも大好きです。
- ・子ども達の考えていることを形にできる方法は何かを考えながら、環境構成や活動の展開に努めてきましたが、こちらの思いと子ども達の現状とのバランスを取るのが難しかったので、その時々にあった方法を考えて自分自身もゆとりをもった保育の進め方ができるように努力したいと思います。

- ・注ぎやすいレードルを購入していただいたことで、こぼしにくくなったのでカップの外側にべたべたとついてしまう事が少なくなりました。
- ・衛生面では毎週金曜日に下水道の清掃、月末に換気扇の清掃、タオルの交換等日々の清掃に加えて行う様にしています。給食室職員、全員で協力して室内を清潔に保てる様にしています。
- ・お弁当の日に園児のお弁当を見せてもらう事もありますが、アレルギー対応児でも卵焼きがはいっている事もあるのでお家での様子も詳しく聞いてみたいと思いました。
- ・安全衛生管理について、気を付けていても起きてしまった食中毒を今年もテレビでは多く報道されていた印象があるため、自分自身の行動一つ一つに注意することに重点を置きました。たった一つの行動が大きなりスクを伴うことになる可能性を十分に理解し、今後も努めていきたいと感じています。